

埼玉大学ホームカミングデー 埼玉大学創基百五十周年記念事業

共催…
埼玉大学
埼玉大学同窓会

第十二回となる

本年度のホームカミングデーは、昨年度に引き続き、埼玉大学祭「むつめ祭」の時期に合わせての開催となりました。さらに、本年度は、埼玉大学創基百五十周年にあたり、その記念事業として特別記念講演が行われました。



創基150周年 特別記念講演の様子



日時

令和五年十一月二十五日(土)

午後一時～

概要は、以下のとおりです。

第一部 歓迎会・講演会

会場 全学講義棟1号館301講義室

●学長挨拶 坂井貴文学長



●特別記念講演

講演一

演題 「埼玉県改正局・埼玉県師範学校から埼玉大学へ」

講師 埼玉大学同窓会顧問

金子美智雄 氏



明治六年に浦和本陣に埼玉県改正局が設置されてから百五十年間の波乱に富んだ内容の講演がありました。(講演要旨は二十六～二十八ページにあります。)

講演二

演題 「瑤沙原の日々 旧制官立浦和高等学校とその伝統」

講師 埼玉大学図書館長

井上 智勝 氏



旧制官立浦和高等学校同窓会が刊行した記念誌『瑤沙原誌』をもとに、かつての浦和高等学校の日々の学生生活の様子などを紹介していただきました。

第二部 官立浦和高等学校記念

資料室等見学ツアー

会場 埼玉大学図書館 三階

教育学部アーカイブギャラリー



第三部 懇親会

会場 埼玉大学 第一食堂

●各学部同窓会会長挨拶



教友会 松澤勇治 会長

●学生表彰

本年度は懇親会も再開され、会の中で、学生表彰も行われました。



表彰される学生



懇親会の様子

埼玉大学創基百五十周年
特別記念講演 要旨
演題「埼玉県改正局・埼玉県
師範学校から埼玉大学へ」

埼玉大学同窓会・教友会顧問
金子美智雄氏

日本の教育史にとって、明治五年に頒布された「学制」は、憲法に匹敵するほどの大改革であった。明治政府は、発足して四年目に「文部省」を設置し、明治五年には学制の頒布となったのである。

明治五年 学制の頒布

明治五年は、廃藩置県の最中でまだ現在の埼玉県が確立していなかった時代である。学制は、六つの項目からできていて、

- 一 大中小学区ノ事
 - 二 学校ノ事
 - 三 教員ノ事
- 以下 略

この中で、大中小学区の学校数については、

- ・全国 八大学区
- ・中学 二五六校
- ・小学 五三、七六〇校

全国に五三、七六〇校の小学校の設置は、現在の日本の小学校数約一万九千三百校と比較しても膨

大な校数である。これを電話もなかった時代に短期間のうちにどのように伝達・情報収集したのか、不思議である。また、学制着手順序として、

- 一 厚クカラ小学校二可用ノ事
 - 二 遠ニ師表学校を興スベキ事
 - 三 一般ノ女子男子ト均シク教育ヲ行ナウベキ事
- 以下 略

つまり、小学校の設置を急ぐこと、そして小学校の教員養成を行うことは喫緊の課題として、対応を最優先したと思われる。

埼玉県改正局の設置

慌てたのは、全国の各府県と思われるが、埼玉県（この時点では浦和・岩槻・忍各県）は、浦和本陣に役所を設置した。

時の埼玉県令（知事）は野村盛秀薩摩藩士、参事は白根多助長州藩士（共に在任中逝去）。文部省に伺いを立てて許可され



浦和宿日本陣表門

たのは師範学校ではなく「改正局」。なぜ「改正局」だったのかについては定かではないが、文部省としては国内大学区にそれぞれ

れ官立の大学と、官立の教員養成の師範学校の設立を予定していたため、埼玉県にだけ許可できなかったものと思われる。また、埼玉県から申請のあった「改正局」は、官立としての許可とはならず埼玉県立での許可となっている。埼玉県令から文部省に対して、御伺い書が提出されているが、明治六年一月十五日の申請に対して文部省から「伺之通」が出たのが



改正局設置伺

明治六年一月十八日であった。

明治十年、文部省は以前に指定した官立の師範学校のうち三つの師範学校を官立から廃止し、併せて「教員養成ノ事業ハ漸次各公立学校師範学校ニ帰任スベキ事」を布達した。つまり官立ではなく県立で運営して欲しい旨の通達である。

そして文部省から「改正局」に対して、政府から派遣された教授陣は、すべて埼玉県以外の士族であった。この中に清浦奎吾とい

う熊本の出身の人物がいたが、この人と県外の士族



清浦奎吾教授

のお陰で埼玉教育は本格始動したと言っても過言ではない。同時期、熊谷県では暢発学校で教員養成を開始している。清浦は明治六年風渡野小学校（現さいたま市立七里小学校）の大教授（校長）となり、後に埼玉県庁に戻って尽力。その後、東京に戻り政界に出馬して第二十三代総理大臣として日本の発展に貢献している。

改正局から師範学校の設置へ

「改正局」発足後、一年後には文部省に「埼玉県師範学校開設許可願」を申請して許可され、第二の地「岸村」で開校した。



埼玉県師範学校 岸村校舎



師範学校・医学校 発祥の地 記念碑

現在の東和銀行浦和支店の一角に小さな記念碑があり、そこに書かれていたのは「師範学校開校、医学校開校」の碑である。碑文には「明治七年この地で師範学校と医学校を開校した。しかし、第一回県議会において、財政

上の問題から「医学校は東京大学医学部に依頼するに如かず」とあった。

同年に教育実習校として附属小学校も設置された。しかし、手狭となり、郷学校の「高砂小学校を附属小学校に充てて実習を行っていた」という記録がある。

医学校を設置しながら財政上の問題で放棄したのが「埼玉大学に医学部が存在しない第一歩となつてしまった」のかも知れない。

新築された鳳翔閣

岸村の師範学校は、何かと手狭になつたため、稲荷丸（現在の埼玉会館の地）に移転が計画された。財政的にはかなり大変だったと思われるが、医学校を放棄したこともあり全精力を傾注して師範学校の新築にあつたものと思れる。

新築となつた校舎の最初の訪問者は、時の太政大臣三条實美。現在で言えば内閣総理大臣。明治天皇が東北、北陸、東海に行幸される際の最初の行在所（宿泊地）を下見にきて「まるで鳳が飛び立つが如し」として命名。これが「鳳翔閣」であつた。



師範学校 稲荷丸校舎(鳳翔閣)



移築・保存された鳳翔閣玄関

明治十一年にこの地で三回目の開校となつている。この建物は明治三十四年女子師範学校として開校したが、女子師範学校についても開校したが、財政上の問題から二転三転し、開校までに十年近く費やしている。この鳳翔閣は、後に別所（現附属中学校）に女子師範学校が移転したあと、埼玉県立図書館として使用され、さらに埼玉会館が建設された時には、解体されて、現在はいま市立浦和博物館の玄関として保存されている。

これまで肝心の「創基」について、触れなかったが「創基」は、「大学のルーツとなつた最初の起源に遡つた創立のこと」であり、このことから「改正局」が埼玉大学の起源にあたることになる。

山口大学では、すでに創基二百年記念の式典を実施している。その後、埼玉県師範学校は、再度の移転となるが、移転先は「鯛ヶ窪」（現さいたま市役所の地）であり、改正局の始まりから数えると、四回目の移転となつた。面積はかなり広がっている。

師範学校としては広い面積を確保し、施設も充実していた。



埼玉師範学校当時の敷地



官立浦和高等学校当時の敷地

官立浦和高等学校の設置

大正十年には官立の浦和高等学校が今の北浦和の地に開校した。しかし北浦和駅は未だなかった。浦和高等学校は、官立として、大正十年十一月八日、日本で二〇番目に設立された高等学校。五千四百十八名の優秀な学生を輩出したが、昭和二十二年の学制改革により、廃校となつた。東京大学への進学率は極めて高く、東京の一流に次いで高かつたとのことである。

新制埼玉大学誕生の経緯

昭和二十二年、教育基本法、学校教育法が公布され、日本の小学校から大学まで大改革が始まつた。旧制高等学校、師範学校は新制の大学への昇格も含めて、それぞれ大改革が始まつたのである。

官立浦和高等学校関係では

昭和二十二年十二月十八日の県議会においては、「県下の実情にに応じて漸次農・法・経・工・医学

部の総合大学の設立を決議」。

浦和高等学校は東京大学と合併し、東京大学教養学部ジュニアコースとして東京大学教授会と合意した。

埼玉師範学校では、埼玉学芸大学案が浮上、昭和二十二年一月二十五日の「教育大学創設準備会」に出席以来、師範学校は新制埼玉学芸大学構想について検討を開始した。

埼玉青年師範学校では、東京農業教育専門学校を中心とする「産業教育大学」への合併や埼玉師範学校と合併するなら、深谷も残して欲しい等の願いが錯綜

新制埼玉大学に向けて

昭和二十三年六月二十九日には、「埼玉県、各学校、文部省、東大の四者間で「浦和高校は東京大学のジュニアコースとして合併し、埼玉師範学校は四年生大学として昇格する」という二案で合意。このあと「埼玉学芸大学構想」の設置に関する学生定員、教員数まで文部省に提出した。

以上の計画は、全て白紙に

上記の申請、計画は、昭和二十四年二月に開かれた大学設置委員会でも否決された。GHQ（連合国総司令部）のCIE（民間情報教

育局)の指示により一府県一大学の原則に従わなければならなくなり、すべて振り出しに戻った。

その後、浦和高等学校・埼玉師範学校・埼玉青年師範学校三者による「国立埼玉大学」の設置が本格始動することとなった。

このとき、浦和高等学校の教員は東京大学に異動することがほぼ決まっていたが、当時の新関校長は、「東大に行きたい人は東大へ、しかし埼玉に残っていい人は是非残って欲しい」と説得、約七割の人は埼玉大学に残ったと言われる。

新制埼玉大学の誕生

文理学部と教育学部で

以上の経過を辿ったが、昭和二十四年五月三十一日、新制国立埼玉大学が誕生した。

現在の埼玉大学が存在することは奇跡に近い経過を辿っている。浦和高校の跡地に文理学部(北浦和キャンパス)、師範学校の跡地に教育学部(常盤キャンパス)が誕生した。



文理学部の正門と校舎



教育学部の正門と校舎

この正門も校舎も埼玉師範学校からそのまま受け継いだものである。

新たな課題への取組み

学部改組と更なる移転

埼玉大学は開学して十年後に新たな課題に直面した。

埼玉県や浦和市から、工学部や理工学部の設置と、それに伴う土地の寄付の申し出であった。

埼玉県と浦和市、それに大学と文部省まで関わって、新たな課題に対応した。移転先はいくつか上げられたが、大久保の地に決定した。



創時期の大久保キャンパス

その後昭和四十年に大々的な学部改組となり、総合大学が誕生した。おかげで、「オール・イン・ワン・キャンパス」となったのである。

また、常盤キャンパスにはさいたま市役所が移転し、玄関の近くには、かつての師範学校の跡地を記念する碑が建てられている。この記念碑は、秩父の山奥から運んで来て教友会が設置したものである。

北浦和キャンパスと常盤キャンパスのその後

北浦和キャンパスの北側半分は埼玉県の所有となり県立美術館と北浦和公園として、南側半分は

官立浦和高等学校正門



埼玉師範の記念碑



浦和北公園と常盤小学校となり、さいたま市の所有となっていた。残念ながら昔の面影は何もなく旧制の浦和高等学校の正門だけが北浦和キャンパスに記念碑の如く設置され公園に人々を送り込んでいる。

また、常盤キャンパスにはさいたま市役所が移転し、玄関の近くには、かつての師範学校の跡地を記念する碑が建てられている。この記念碑は、秩父の山奥から運んで来て教友会が設置したものである。

立ち並ぶ校舎・研究棟

大久保キャンパスは埼玉県唯一の国立大学として、そびえ立つ研究棟の数々、師範学校からの卒業生は、十一万人を数え、卒業生は産官学それぞれの場で活躍している。

野口源三郎氏は機関誌「教友」の中で「私は同窓であろうか」というタイトルで原稿を寄せている。野口氏は埼玉師範学校を卒業後、東京高等師範学校に入学、卒業後同校で教鞭をとり、埼玉大学に異動後は教育学部長をされた方である。「校名は違っても、校舎は違っても同窓と思われる」と。



現在の常盤キャンパス

埼玉県改正局設置以来百五十年。幾多の難問を乗り越えて、平和な現在がある。次は、埼玉大学創基二百年に向けて埼玉大学も同窓会も大きくはばたくことを祈念して止まない。

主な参考・引用文献

- 百年史 埼玉大学教育学部
- 埼玉大学五十年史
- 埼玉大学七十年史
- 埼玉県教育史 第三巻
- 教友会会報「教友」・会員名簿

ほか